

児島湾沖ノリ漁場の栄養塩動態

硝酸塩センサーを用いた自動観測からみえてきたこと

【背景・目的】

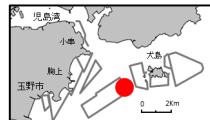


栄養塩不足



頻発する色落ち被害軽減のため、モニタリングを実施(10月～3月)

- ①月数回の採水調査
- ②測器を用いた塩分観測
- ③硝酸塩センサーを用いた自動観測



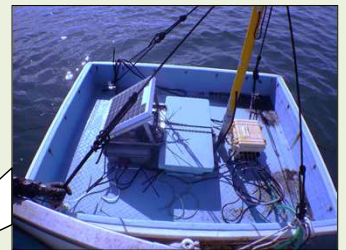
自動観測の概要

測定データを自動送信
→ホームページで公開

転送装置

硝酸塩センサー

60分に1回、自動で測定



【成果の内容】

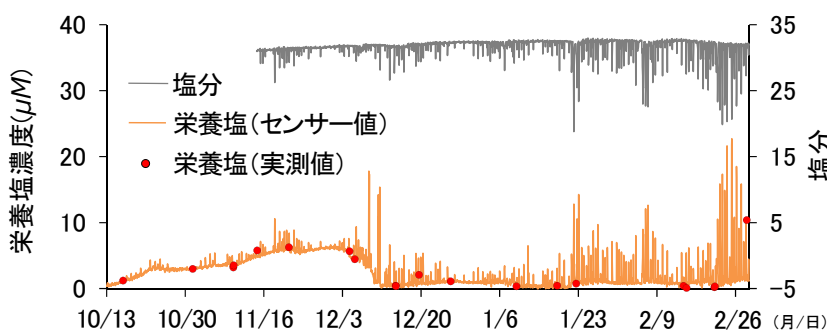
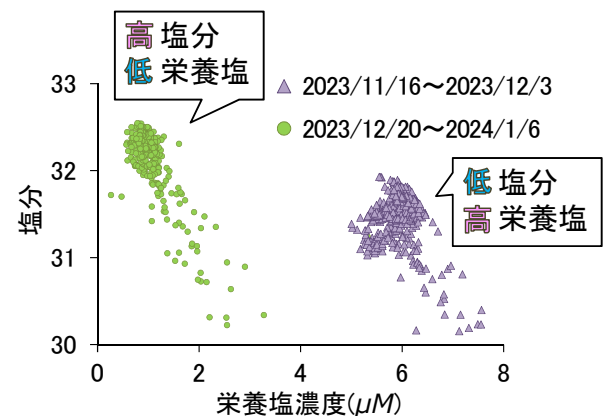


図1 2023年度ノリ漁期における栄養塩濃度と塩分の推移



2023年度ノリ漁期における栄養塩濃度の動態【図1】

- ・10月～12月にかけて**上昇**
- ・12月中旬に急激に**下降**
→異なる水塊による季節的変化の可能性【図2, 3】
- ・1月以降は横ばい
- ・期間を通して、塩分低下時に**一時的な上昇**
→降雨による河川水の流出に由来

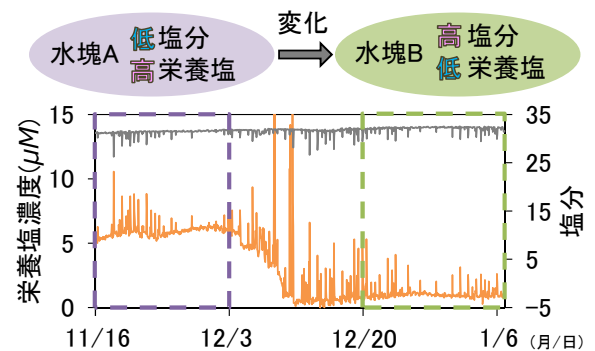


図2 塩分と栄養塩濃度の関係

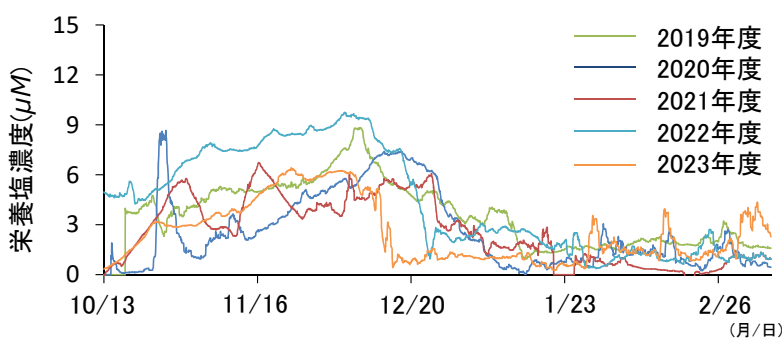


図3 年度ごとの栄養塩濃度の25時間移動平均値の推移

時期が前後するものの、**過去5年**
いずれも同様の栄養塩濃度の動
態が確認されました【図3】。

今後もノリ養殖の安定生産に向
けた調査を継続しつつ、栄養塩
濃度の変動について解析します。